

般若波羅蜜多心經

般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五  
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不  
異色空即是空空即是空受想行識六復如  
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨  
不增不减是故空中无色無受想行識無眼  
耳鼻舌身意無色聲香味觸法無眼耳鼻  
無意識界無五明二無五明盡乃至無老死  
二無老死盡無苦集滅道無智二無得二無  
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無  
罣礙無罣礙故無有恐怖遠離顛倒夢想  
究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多以  
得阿耨多羅三藐三菩提故般若波羅蜜  
多是大神呪是大明呪是無上呪是無等  
呪能除一切苦真實不虛故說般若波羅蜜  
多呪即說呪曰  
揭諦揭諦 股羅揭諦 股羅僧揭諦 善提莎婆訶  
般若多心經

右為

○○○○↑ここに願い事を書きます(文例については別紙参照)

年月日 姓名 氏名

般若波羅蜜多心經  
はん にや は ら み た しんぎやう

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五  
かん じざい ぼさつ ぎやう じん はんにや は ら み た しんぎやう

蘊皆空度一切皆空舍利子色不異空空空不  
うん がい けう だ い けつ がい けう せり じよ じき ふ けう けう けう けう けう けう けう

異色即空空即空是空即空是空即空是空即  
い じき けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう

是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨  
ぜ せり じよ ぜ しょ ぽう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう

不增不减是故空中无色无受想行識无眼  
ふ ぞう げん ぜん げん けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう

耳鼻舌身意气聲香味觸法空眼界乃至  
み び ぜつ しん ぎ ぐう せう じき けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう

无意識界无至明一色一香一觸法空眼界乃至  
む ぎ ぎ けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう

二无老死无盡苦集滅道无智二无得二空  
に ぶ らう じ けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう けう

所得般若提摩挈依般若波羅蜜多故心无  
しよ じやく へん げ たい だつ ぎ げん げん げん げん げん げん げん げん げん げん げん げん

右為

股若多心經  
はんにや たしんぎよう

揭諦揭諦 股羅揭諦 善提沙婆訶  
ぎやていぎやてい はらそんぎやてい はらそんぎやてい  
はらそんぎやてい はらそんぎやてい はらそんぎやてい  
はらそんぎやてい はらそんぎやてい はらそんぎやてい

多呪即呪  
たしゆそくしゆわつ

呪能除一切苦 真寶不虛校 說股若波羅蜜  
しゆのうじよいっさいく ふじつしんぎふこせつ はにやんはにやん  
はにやんはにやんはにやんはにやんはにやんはにやんはにやん

多是大神 呪是大明 是無上呪 是無等尊  
たぜだいにんしゆぜだいにんしゆぜだいにんしゆぜだいにんしゆ  
ぜだいにんしゆぜだいにんしゆぜだいにんしゆぜだいにんしゆ

得阿耨多羅三藐三菩提 知股若波羅蜜  
とくあくのくたらしんみくさんぜんみくさんぜんみくさんぜん  
ぜんみくさんぜんぜんみくさんぜんぜんみくさんぜんぜんみくさんぜん

想究竟涅槃 三世諸佛 依股若波羅蜜 多跋  
そうききうねくぎきうねくぎきうねくぎきうねくぎきうねくぎきう  
ねくぎきうねくぎきうねくぎきうねくぎきうねくぎきうねくぎきう

罪罣無有 恐怖 遠離 顛倒 苦  
けいげむむけいげむむけいげむむけいげむむけいげむむけいげむ  
むむけいげむむむけいげむむむけいげむむむけいげむむむけいげむ

↑ここに願ひ事を書きます(文例については別紙参照)

年 月 日

姓名氏名

般若波羅蜜多心經

般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五  
蘊皆空度一切苦厄

觀自在菩薩、深般若波羅蜜多を行いし時、五蘊は皆空なりと照見し、一切の苦厄を度したまふ。

觀自在菩薩が深遠なる「英知の完成」を実践（修業）していた時、こう省察した。  
世界に存在するものには五つの構成要素しかなく、かつそれらはその本性からして、本来空虚なものだと。  
このように見極めることによって、すべての苦惱・災いを取り除かれたのであった。

- ※觀自在とは、梵語の漢訳のこと。菩薩とは、釈尊の生前。また、覺りを求める求道者のこと。
- ※構成要素とは、五蘊（蘊と同じ）「色・受・想・行・識」の五種のこと。
- ※空虚とは、無我・何もない状態のこと。ただし直接的な非存在のことではない。
- ※度一切苦厄は梵語原文には無く、訳者玄奘による挿入。

舍利子色不異空空不異色色即空空即  
是色受想行識六復如是舍利子

舍利子よ。色は空に異ならず、空は色に異ならず。色は即ち是れ空なり、空は即ち是れ色なり。  
受・想・行・識も亦復た是くの如し。舍利子よ。

舍利弗よ（と彼は言った）。（この経験的世界の内部においては、）物質的現象は空虚であることを離れて存在しないし、空虚である（こと）を離れて物質的現象は存在しない。物質的現象というものはそのまま空虚であるし、空虚性がそのまま物質的現象なのである。  
同じことは、受・想・行・識にもあてはまる。（つまりこれらは）実体なく空虚なのである。

- ※舍利子とは梵語の音訳。釈尊の弟子の一人。
- ※受とは、感覚や知覚によって受ける感情のこと。
- ※想とは、概念や心像を形成する作用のこと。
- ※行とは、精神の意志的な働きのこと。
- ※識とは、分かち知ることの意で、判断し認識する心的作用のこと。

般若波羅蜜多心經

(2)

般若波羅蜜多心經

是諸法空相不生不滅不垢不淨不增不減

是故空中无色无受想行識无眼耳鼻

身意无色声香味觸法

是の諸法は空相にして、生ぜず滅せず、垢つかず浄からず、増えず減らず、  
是の故に空の中には色無く、受・想・行・識無く、眼・耳・鼻・舌・身・意無く、  
色・声・香・味・触・法無し。

世界に存在するものは全て、空虚であることをその本質としている。

生成することなく消滅することなく、汚れることなく清浄になることなく、増大することなく減小することがない。

それ故に（舍利弗よ）、本質としての空虚という立場（根拠）にあつては、物質的現象（色）は存在せず、

受・想・行・識も存在しない。眼・耳・鼻・舌・身・意（の六根）も存在しないし、

色・声・香・味・触・法（の六境）も存在しない。

※眼は視覚、耳は聴覚、鼻は嗅覚、舌は味覚、身は全身の触覚、意は苦楽善悪の知覚をいう。

この六つを総称して六根（六内処）と称す。

※六境とは六根の対象のこと。六境と六根を併せて、十二処と称す。

无眼界乃至无意识界无五明无三昧无智亦得  
无老死无无老死尽无苦集灭道无智亦得

眼界無く、乃至意識界無し。無明無く、亦無明の尽くることが無し。  
乃至老死無く、亦老死の尽くることが無し。苦・集・滅・道無く智無く、亦得無し。

眼識から意識に至るまでの（六識）の領域も全て存在しないのである。

無明から老死に至る（十二因縁も）存在することはない、またそれらが消滅することもない。

苦悩も、苦悩の根源も、苦悩を制することも、苦悩を制する道も存在せず、

覚りを知ることもない、体得された理法もない。

※六識とは、六根を認識する作用、その主体をいう。即ち眼識界・耳識界・鼻識界・舌識界・身識界・意識界の六つである。これに十二処を加えて十八界と呼ぶ。

※十二因縁とは、無明・行・識・名色・六入・触・受・愛・取・有・生・老死の十二をいう。

（一）まで五蘊・十二処・十八界・十二因縁という（小乗的な）世界の系統化をあげて「無い」ものとしている。

般若波羅蜜多心經

(3)

般若波羅蜜多心經

以無所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無罣礙無罣礙故無有恐怖遠離顛倒夢想究竟涅槃

得るところなきを以ての故に、菩提薩埵は、般若波羅蜜多に依るが故に。  
心に罣礙無し。罣礙無きが故に、恐怖あること無く、顛倒夢想を遠離して、涅槃を究竟す。

何かを、(それを存在するものとして) 得るといふことがないゆえ、菩薩(求道者)達は「英知の完成」に依拠して心を何かに束縛されることがない。心に束縛がないから、恐怖の感情がなく、迷いを離脱して、窮極的な涅槃の境地に到達しているのだ。

※一般に流布している般若心経には「遠離一切顛倒夢想」とある。「一切」の語は、梵語原文にもない。  
※涅槃とは、梵語の音訳。寂・寂滅とも訳される。一切の煩惱が「吹き消されている」ことが原義。  
六道の生死輪廻を超えた、至高の覚りの境地を言う。

三世諸佛依般若波羅蜜多故得阿耨多羅三藐三菩提

三世の諸仏も、般若波羅蜜多に依るが故に、阿耨多羅三藐三菩提を得たり。

過去・現在・未来の三世に現れる諸々の仏陀(覚者)達も、(全て)「英知の完成」に依拠するがゆえに、無上の覚りを得られたのだ。

※阿耨多羅三藐三菩提とは、梵語の音訳。「無上正等正覚」の意。  
自ら覚りを開くとともに、他を済度して覚らしめる、仏の完全な覚りをいう。

# 般若波羅蜜多心經

(4)

## 般若波羅蜜多心經

般若波羅蜜多是大神呪是大明呪是無上  
呪是無等呪能除一切苦真實不虛故

故に知るべし、般若波羅蜜多是れ大神呪なり、大明呪なり、是れ無上呪なり、是れ無等等呪なり。能く一切の苦を除き、真實不虛なるが故に。般若波羅蜜多の呪を説く。

それ故、(人は) 知るがよい。「英知の完成」は偉大な真言である。偉大な覺りの真言である。至高の真言である。比類無き真言である。それは一切の苦惱を打ち払うのである。偽るところがなく真實であるがために。

※「呪」は通常「咒」を用いる。梵語マントラの訳。真言・密言・密咒などと訳されることもある。古来より宗教歌の色彩が濃厚な不可思議な靈力を持つ言葉とされる。

說般若波羅蜜多呪即說呪曰  
揭諦揭諦 般若揭諦 般若揭諦 善提沙婆訶  
般若多心經

即ち呪を説きて曰く、  
揭諦揭諦・般若揭諦・般若揭諦・般若僧揭諦・菩提沙婆訶  
般若多心經

「英知の完成」において、真言は次のように説かれた。

ガテー ガテー パーラガテー パーラサンガテー ボーディ スヴァーハー

英知(の完成)の精髓がここに終わった。

※形式としては息災法に近い真言。本来真言は、窮極的な姿、無意味の極限にまで押しやられることによって、意味ある何物かを取り出す言葉であるため、古来より翻訳不要、不訳とされてきた。従って玄奘も音写にとどめている。ただし伝統的解釈によれば 往けり、往けり、彼岸に往けり、覺りあり、幸あれ となるが、以上を踏まえた上で「音」として受け取るのが良い。

※結びの句「般若多心經」は般若波羅蜜多心經の略。心は梵語フリダヤの訳。最も肝心なところという意味。

### 参考文献

・二玄社 中国法書選19 集字聖教序 東晉 王羲之  
・マール社 書聖名品選集3 王羲之 集字聖教序



はんにゃはらみつたしんぎょう 般若波羅蜜多心経というお経があります。

その内容は、

この世界に存在する全てのモノは、五つの要素で出来ています。

- 一、色（いろ）という、この世界の物質のこと、
- 二、受（うける）という、あなたの感情のこと、
- 三、想（おもい）という、あなたの気持ちのこと、
- 四、行（おこなう）という、あなたの意志のこと、
- 五、識（しる）という、お互いを認識すること、です。

そしてそれらは、そもそも空虚という、空っぽで虚ろなものなのです。そう捉えることによって、あなたの悩み苦しみは無くなります。

モノとして存することは、空っぽで虚ろなことからは離れられないし、その逆もありません。

この世界に存在する全てのモノは、空っぽで虚ろであることが本当のことなのです。

モノが新しく出来たり消えたり、汚れたり奇麗になったり、大きくなったり小さくなったりすることもありません。

あなたの見えること、聞くこと、嗅ぐこと、味わうこと、感じること、思うこと、これらの五つの感覚と一つの意識も存在しないものなのです。眼に見えることから意識まで存在しないものなのです。

産まれてくることが存在するということではなく、死ぬことも消えるということではないのです。

悩み苦しみやその根っこもそれをコントロールする方法もなく、覚りを知ったりそれを体得する方法もありません。

何かを得るといふ方法はないので、求道者達は「英知の完成」に依って、心が縛られることもなく、縛られていないので恐怖もなく、迷うこともなく、道を極めた境地に達しているのです。

過去、現在、未来に現れる仏様たちも全て「英知の完成」に依って自ら覚りを開き、たくさんの人々を救っているのです。

そのために、知って下さい。

「英知の完成」は素晴らしい真実の言葉です。究極の言葉です。偉大な覚りの言葉です。比類ない言葉です。

それはすべての悩み苦しみを打ち払います。偽らない真実であるために。

そして「英知の完成」は、次のように説かれています。

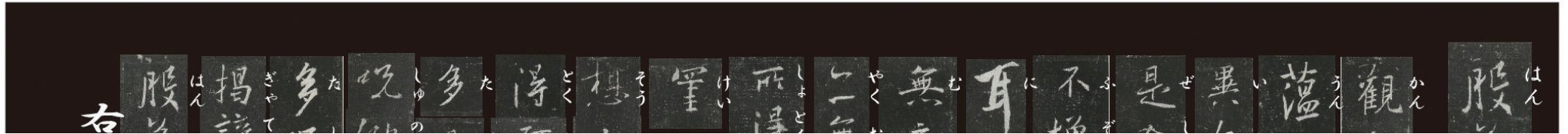
ギヤーテイ ギヤーテイ ハラギヤーテイ

ハラソーギヤーテイ ボジソワカ

という言葉で「英知の完成」のエッセンスがここに示されました。

最初の書き出しの定規替わりにお使い下さい

半紙ヨコ (B4 ヨコ) 版▽



半紙タテ (B4 タテ) 版▽



# 祈願文例

心願成就

災難消滅

家内安全

障害打破

家運隆盛

厄難消滅

鎮宅除災

運氣改善

開運除災

商売繁昌

夫婦円満

社運隆盛

延寿福樂

受験合格

身体健康

入試合格

身心健全

入社合格

無病息災

学業優秀

当病平癒

諸芸上達

良縁成就

火難除け

子宝成就

交通安全

安産成就

旅行安全

除災招福